

中小企業景況調査報告書

第158回

2020年4～6月期 実績

2020年7～9月期 見通し

2020年7月

CONTENTS

I. 概況

今期の業況・産業別の動向	1～2
1. 業況	3～4
2. 売上高	5
3. 採算(経常利益)	6
4. 資金繰り	7
5. 経営上の問題点	8
6. 従業員の動向	8
7. 新規設備投資	9

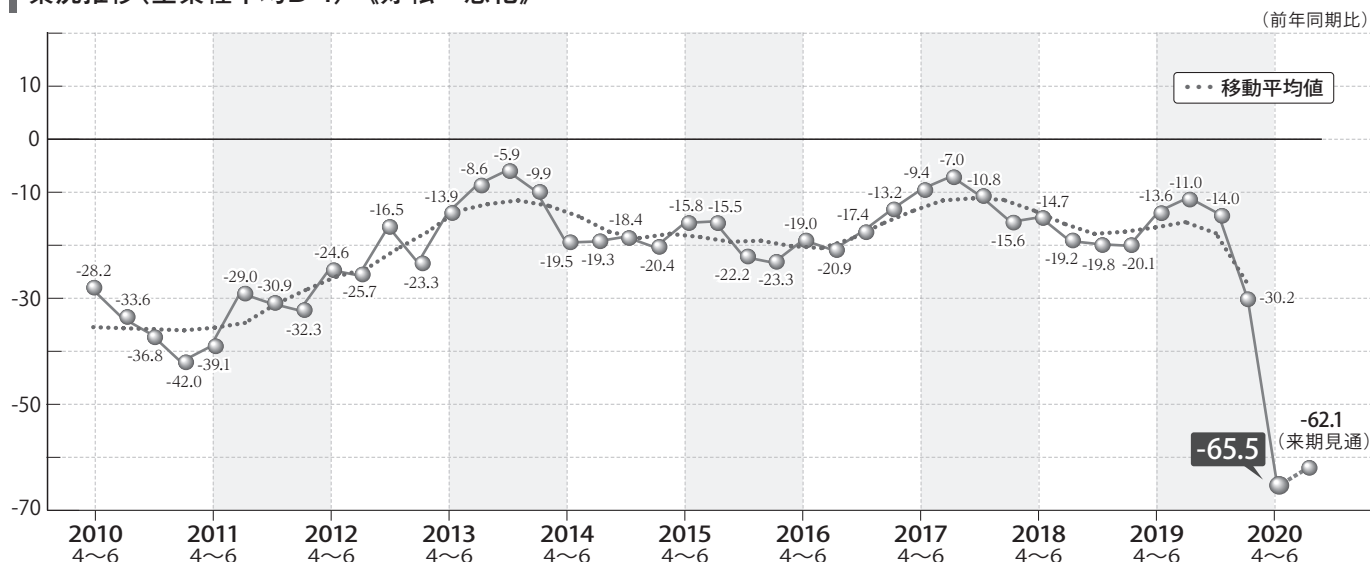
II. 調査要領 10

1. 調査時点及び調査対象期間
2. 調査対象
3. 調査地域及び調査方法
4. 業種別・規模別回答状況

I. 概 況

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、業況、売上、採算で過去最悪を記録
来期も回復は見込めず

業況推移(全業種平均D・I) 《好転—悪化》



今期の業況

今期(4~6月期)の中小企業景況調査における全業種平均D・I値(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、前年同期比(2019年4月~6月期の水準と比較した今期の業況)では▲65.5と前回調査からマイナス幅を大幅に拡大し、昭和55年の調査開始以来、過去最低を記録した。

また、来期の業況見通しは、▲62.1と依然厳しい状況が続く見通しとなっている。

業種別では、前年同期比、製造(前回▲40.4→今回▲75.3)、建設(前回▲16.7→今回▲38.1)、卸売(前回▲38.0→今回▲74.2)、小売(前回▲27.7→今回▲64.1)、サービス(前回▲28.1→今回▲76.1)と、全業種でマイナス幅が拡大した。

今期の経営上の問題点として、「需要の停滞」、が大きな要因となっている。また、製造業では「原材料価格の上昇」、建設業では「従業員の確保難」、卸売業では「店舗・倉庫の狭隘・老朽化」、小売業では「消費者ニーズの変化への対応」、サービス業では「利用者ニーズの変化への対応」などの問題点が浮上した。

また、新たに設備投資を実施した企業は平均で17.0%[前回調査時(2020年1~3月期18.7%)]、業種別では製造[前回16.3%→25.0%]、建設[前回26.5%→23.6%]、卸売[前回12.3%→10.0%]、小売[前回17.7%→16.9%]、サービス[前回20.7%→9.6%]と、建設業・卸売業・小売業・サービス業では実施した企業が減少した。

産業別の動向

製造業 [業況D・I値(前年同期比)▲75.3(来期見通し▲75.0)]

業況D・I値(前年同期比)の前の調査(2020年1~3月期)時点からの推移では、前回▲40.4→今回▲75.3と34.9ポイントマイナス幅を拡大した。来期は▲75.0と今期と同様、非常に厳しい見通し。

主なコメント

- ・新型コロナウイルス感染拡大による自粛ムードから、小売業界の新聞折り込みチラシが激減し、業務が大幅に減少した。(印刷・出版業)
- ・新型コロナウイルスの影響により、前年同期比で売上は8割程減少した。例年、本州各地で実施されていた北海道物産展等の中止による影響が大きい。(食品製造販売業)
- ・慢性的な人手不足であるが、新型コロナウイルスの影響が落ち着くまでは、採用を行うべきか控えるべきか迷うところである。(パン・菓子製造業)

建設業 【業況D・I値(前年同期比)▲38.1(来期見通し▲37.5)】

業況D・I値(前年同期比)の前回の調査(2020年1~3月期)時点からの推移では、前回▲16.7→今回▲38.1と21.4ポイントマイナス幅を拡大した。来期は▲37.5と今期と横ばいの見通し。

主なコメント

- ・ホテル業界を筆頭にあらゆる産業で設備投資計画の見直しが行われており、今年度以降の工事受注額に大きな影響があると思われる。
(総合工事業)
- ・新型コロナウイルスの影響により、工事に必要な機器の海外からの入荷が遅れており、工事に遅延が生じている。(電気工事業)
- ・エンドユーザーが感染を恐れることから、現場に作業員が入れない。当面は休業状態が続く。(内装工事業)

卸売業 【業況D・I値(前年同期比)▲74.2(来期見通し▲67.8)】

業況D・I値(前年同期比)の前回の調査(2020年1~3月期)時点からの推移では、前回▲38.0→今回▲74.2と36.2ポイントマイナス幅を拡大した。来期は▲67.8と厳しい見通し。

主なコメント

- ・外食、ホテル関連の冷え込みが著しく、食品卸業界においてもその煽りを受けており、先行き不透明な状況にある。
(農畜産物・水産卸売業)
- ・移動自粛による土産品の売上不振、ホテルや食堂の利用減による食材需要の低下、物産展の中止等が影響し、業績が悪化した。
(食料・飲料卸売業)

小売業 【業況D・I値(前年同期比)▲64.1(来期見通し▲58.7)】

業況D・I値(前年同期比)の前回の調査(2020年1~3月期)時点からの推移では、前回▲27.7→今回▲64.1と36.4ポイントマイナス幅を拡大した。来期は▲58.7と若干マイナス幅を縮小する見通し。

主なコメント

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により売上が半減した。この状況が長期化すると、企業の倒産や廃業が続くのではないかと心配している。(酒類販売業)
- ・新型コロナウイルス感染拡大により外出を控える人が多かった影響から、売上は前年同期比で20%程減少した。仕入、経費等に大きな影響は無かった。(鮮魚小売業)
- ・コロナが終息し、インバウンドが入ってこない大変厳しい。従業員の解雇も考えて今後の経営をしなくてはならない。(食料品小売業)

サービス業 【業況D・I値(前年同期比)▲76.1(来期見通し▲71.7)】

業況D・I値(前年同期比)の前回の調査(2020年1~3月期)時点からの推移では、前回▲28.1→今回▲76.1と48.0ポイントマイナス幅を拡大した。来期は▲71.7と非常に厳しい見通し。

主なコメント

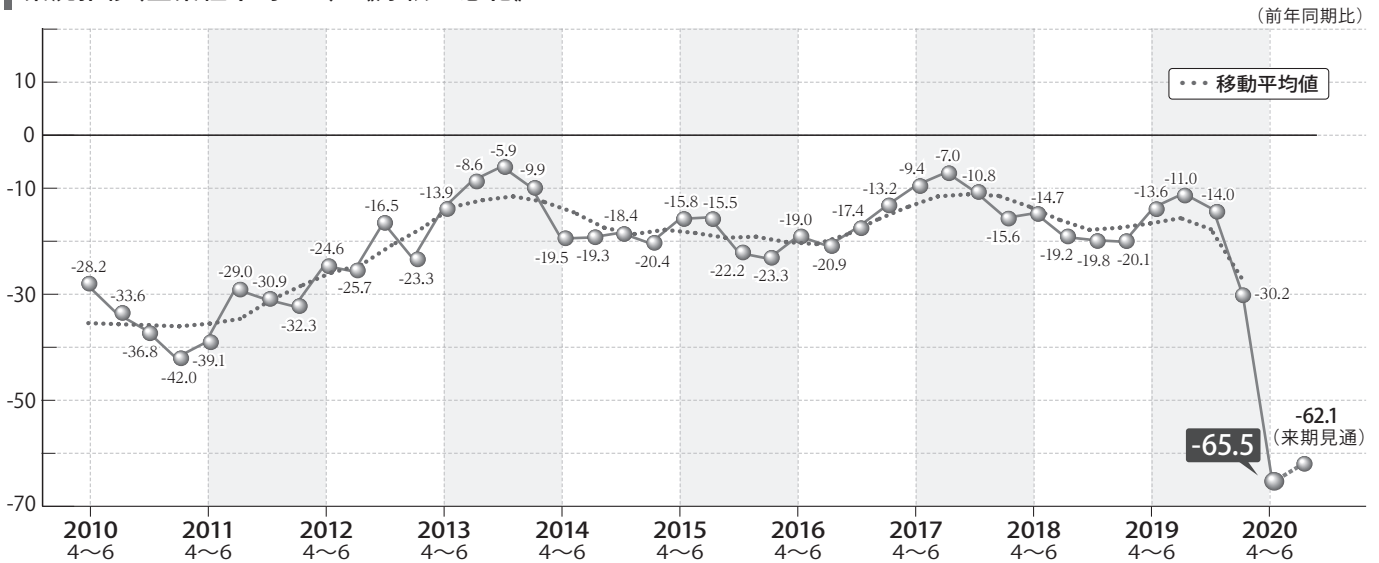
- ・テイクアウトに重点を置いた業務にシフトしたが、それでも大幅な減収は避けられない。(飲食業)
- ・道外からの観光客だけではなく、道内の他自治体から来る観光客を嫌う雰囲気醸成されていると思う。このままでは宿泊業は営業できない。(宿泊業)
- ・5月まで本州からのツアー客がゼロとなった。学校行事関連も全く予定が決まらない。(旅行業)

1. 業況

1 今期の業況

前年同期比 (2019年4~6月期の水準と比較した今期の業況)

業況推移(全業種平均D・I) 《好転—悪化》

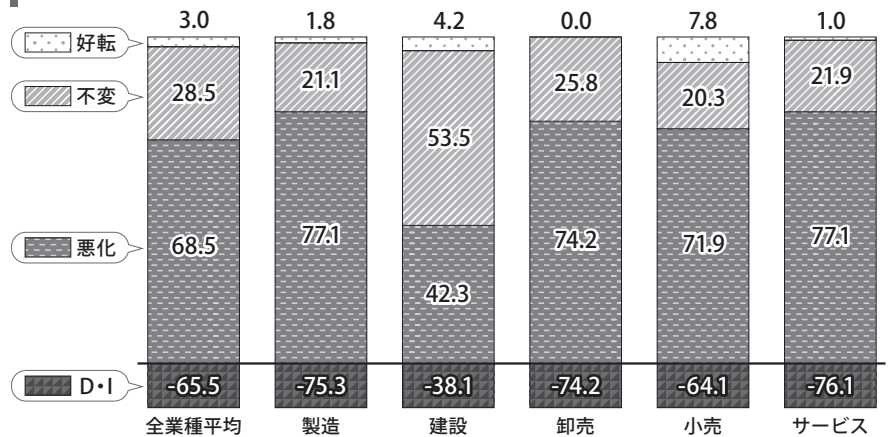


全業種平均でD・I値▲65.5 [前回調査時(2020年1~3月期▲30.2)より35.3ポイントマイナス幅を拡大]

業種別D・I値

全業種	前回▲30.2→▲65.5
製造	前回▲40.4→▲75.3
建設	前回▲16.7→▲38.1
卸売	前回▲38.0→▲74.2
小売	前回▲27.7→▲64.1
サービス	前回▲28.1→▲76.1

今期の業況(前年同期比)



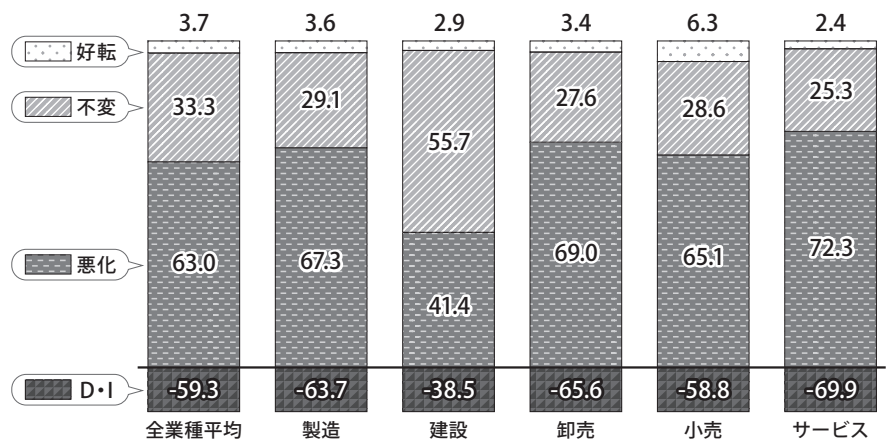
前期比 (2020年1~3月期の水準と比較した今期の業況)

全業種平均でD・I値▲59.3 [前回調査時(2020年1~3月期▲34.4)より24.9ポイントマイナス幅を拡大]

業種別D・I値

全業種	前回▲34.4→▲59.3
製造	前回▲46.2→▲63.7
建設	前回▲23.6→▲38.5
卸売	前回▲34.5→▲65.6
小売	前回▲36.6→▲58.8
サービス	前回▲31.1→▲69.9

今期の業況(前期比)



今期の水準

全業種平均でD・I値▲64.1〔前回調査時(2020年1~3月期▲35.2)より28.9ポイントマイナス幅を拡大〕

業種別D・I値

全業種 前回▲35.2→▲64.1

製造 前回▲49.0→▲77.1

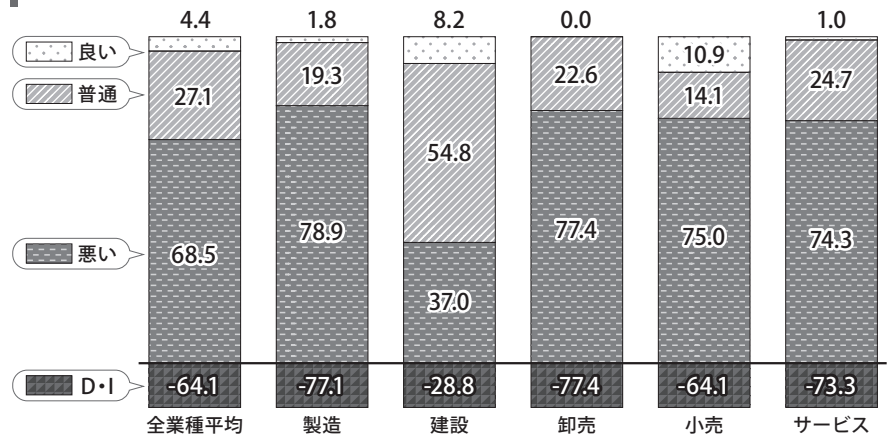
建設 前回▲20.8→▲28.8

卸売 前回▲33.8→▲77.4

小売 前回▲43.2→▲64.1

サービス 前回▲29.5→▲73.3

今期の業況(今期の水準)



2 来期の業況

前年同期比 (2019年7~9月期の水準と比較した来期の見通し)

全業種平均でD・I値▲62.1〔今期の業況(前年同期比▲65.5)より3.4ポイントマイナス幅を縮小する見通し〕

業種別D・I値

全業種 今回▲65.6→▲62.1

製造 今回▲75.3→▲75.0

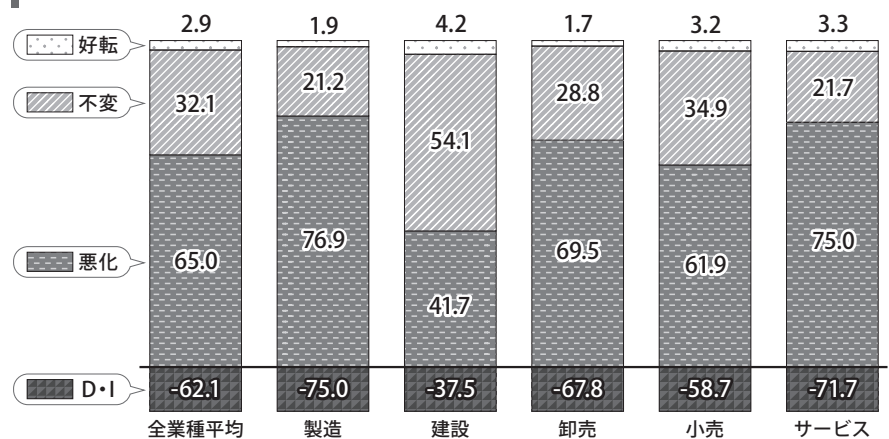
建設 今回▲38.1→▲37.5

卸売 今回▲74.2→▲67.8

小売 今回▲64.1→▲58.7

サービス 今回▲76.1→▲71.7

来期の業況見通し(前年同期比)



今期比 (2020年4~6月期の水準と比較した来期の見通し)

全業種平均でD・I値▲37.7〔今期の業況(今期水準▲64.1)より26.4ポイントマイナス幅を縮小する見通し〕

業種別D・I値

全業種 今回▲64.1→▲37.7

製造 今回▲77.1→▲44.5

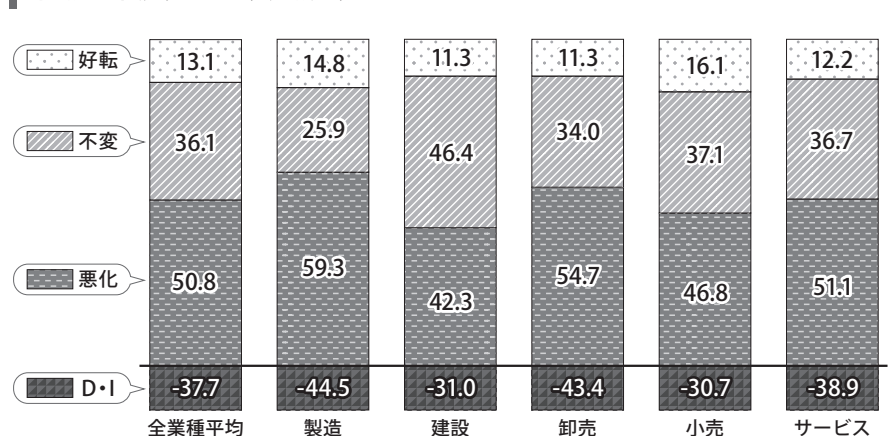
建設 今回▲28.8→▲31.0

卸売 今回▲77.4→▲43.4

小売 今回▲64.1→▲30.7

サービス 今回▲73.3→▲38.9

来期の業況見通し(今期比)

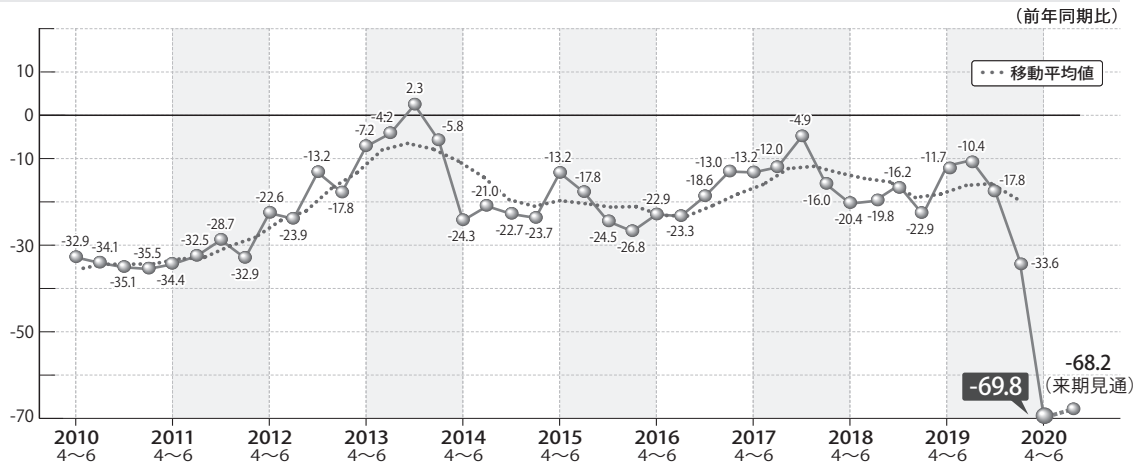


2. 売上高

1 今期の売上高

前年同期比 (2019年4~6月期の水準と比較した今期の売上高)

売上高推移
(全業種平均D・I)
《増加—減少》

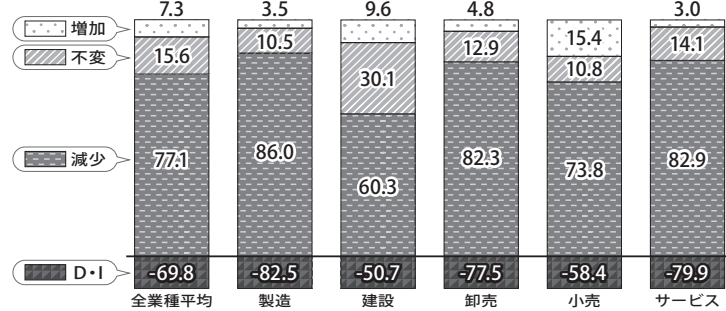


全業種平均でD・I値▲69.8[前回調査時(2020年1~3月期▲33.6)より36.2ポイントマイナス幅を拡大]

業種別D・I値

全業種	前回▲33.6→▲69.8
製造	前回▲47.1→▲82.5
建設	前回▲24.6→▲50.7
卸売	前回▲27.2→▲77.5
小売	前回▲32.9→▲58.4
サービス	前回▲36.4→▲79.9

今期の売上高(前年同期比)



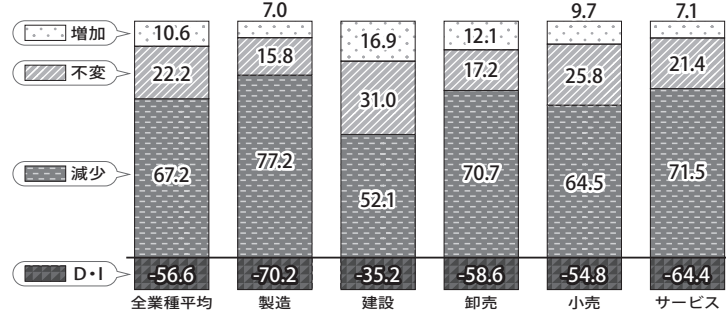
前期比 (2020年1~3月期の水準と比較した今期の売上高)

全業種平均でD・I値▲56.6[前回調査時(2020年1~3月期▲41.7)より14.9ポイントマイナス幅を拡大]

業種別D・I値

全業種	前回▲41.7→▲56.6
製造	前回▲52.0→▲70.2
建設	前回▲21.9→▲35.2
卸売	前回▲52.5→▲58.6
小売	前回▲48.5→▲54.8
サービス	前回▲33.3→▲64.4

今期の売上高(前期比)



2 来期の売上高

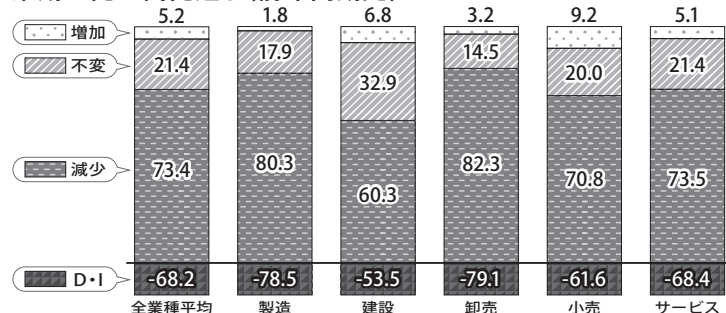
前年同期比 (2019年7~9月期の水準と比較した来期の見通し)

全業種平均でD・I値▲68.2[今期の売上高(前年同期比▲69.8)より1.6ポイントマイナス幅を縮小する見通し]

業種別D・I値

全業種	今回▲69.8→▲68.2
製造	今回▲82.5→▲78.5
建設	今回▲50.7→▲53.5
卸売	今回▲77.5→▲79.1
小売	今回▲58.4→▲61.6
サービス	今回▲79.9→▲68.4

来期の売上高見通し(前年同期比)

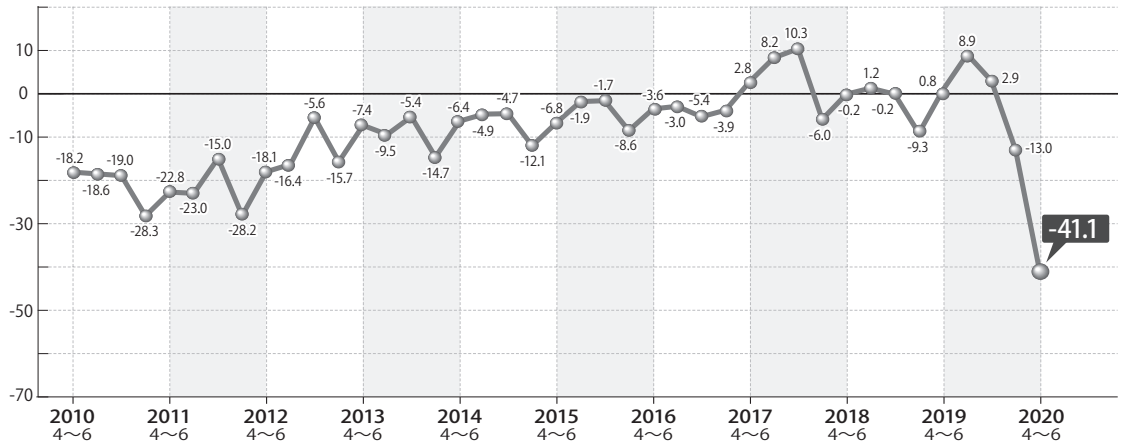


3. 採算(経常利益)

1 今期の採算

今期の水準

採算推移
(全業種平均D・I)
《黒字—赤字》

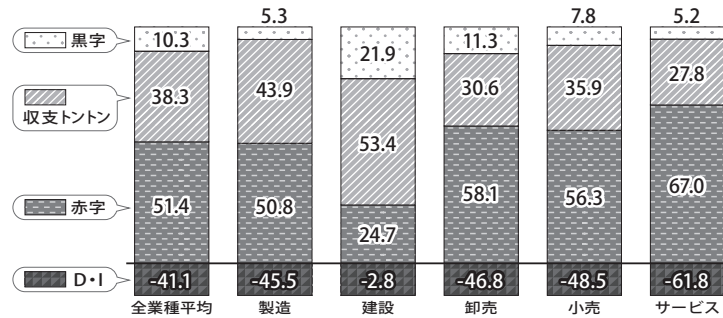


全業種平均でD・I値▲41.1[前回調査時(2020年1~3月期▲13.0)より28.1ポイントマイナス幅を拡大]

業種別D・I値

全業種	前回▲13.0→▲41.1
製造	前回▲20.8→▲45.5
建設	前回 11.1→▲ 2.8
卸売	前回▲16.9→▲46.8
小売	前回▲31.3→▲48.5
サービス	前回▲ 7.3→▲61.8

今期の採算(今期的水準)



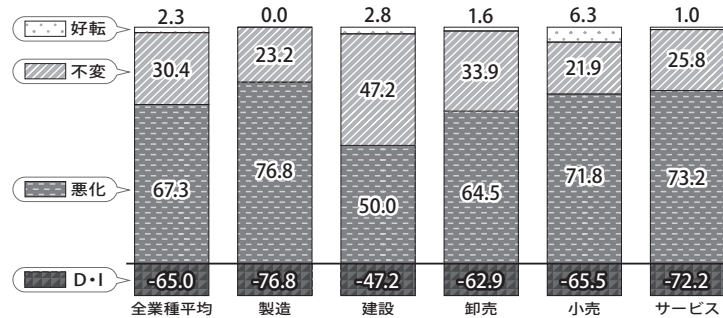
前年同期比 (2019年4~6月期の水準と比較した今期の採算)

全業種平均でD・I値▲65.0[前回調査時(2020年1~3月期▲30.9)と34.1ポイントマイナス幅を拡大]

業種別D・I値

全業種	前回▲30.9→▲65.0
製造	前回▲41.5→▲76.8
建設	前回▲ 9.5→▲47.2
卸売	前回▲28.8→▲62.9
小売	前回▲35.8→▲65.5
サービス	前回▲39.1→▲72.2

今期の採算(前年同期比)



2 来期の採算(経常利益)

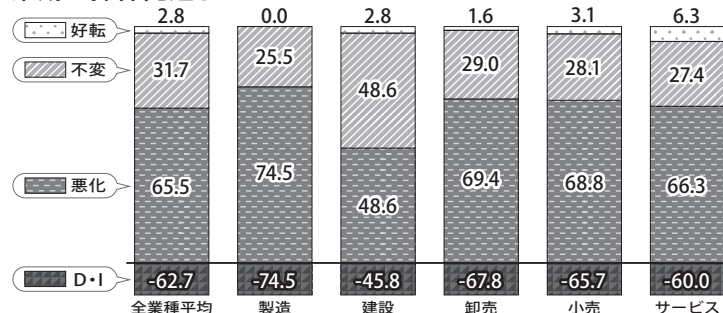
来期

全業種平均でD・I値▲62.7[今期の採算(今期的水準▲41.1)より21.6ポイントマイナス幅を拡大する見通し]

業種別D・I値

全業種	今回▲41.1→▲62.7
製造	今回▲45.5→▲74.5
建設	今回▲ 2.8→▲45.8
卸売	今回▲46.8→▲67.8
小売	今回▲48.5→▲65.7
サービス	今回▲61.8→▲60.0

来期の採算見通し

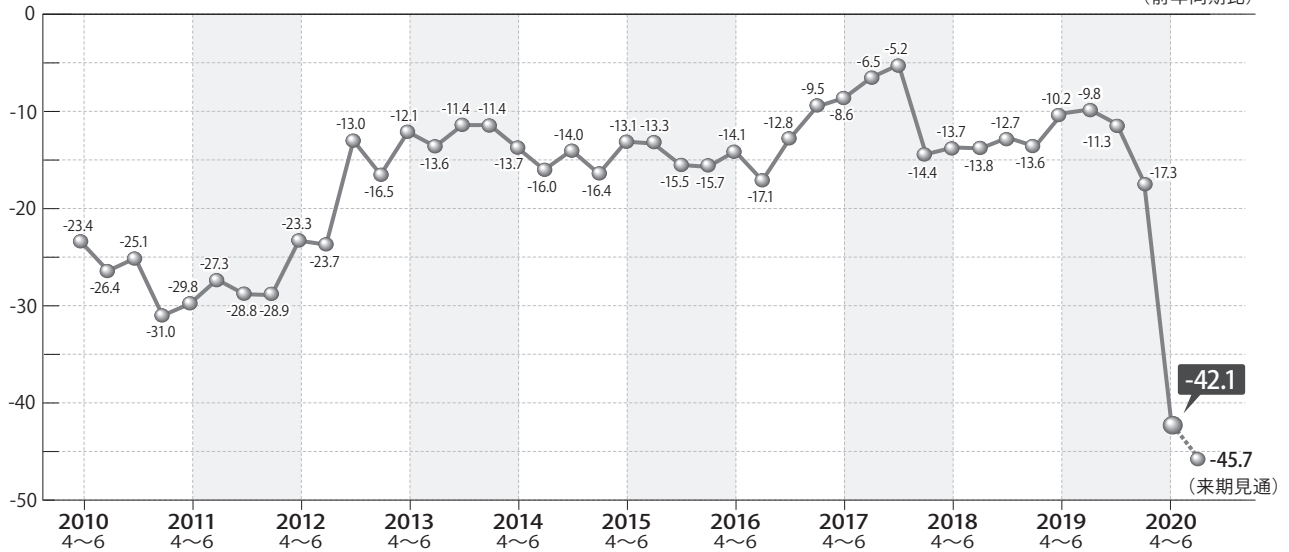


4. 資金繰り

1 今期の資金繰り

資金繰り推移(全業種平均D・I)《好転—悪化》

(前年同期比)



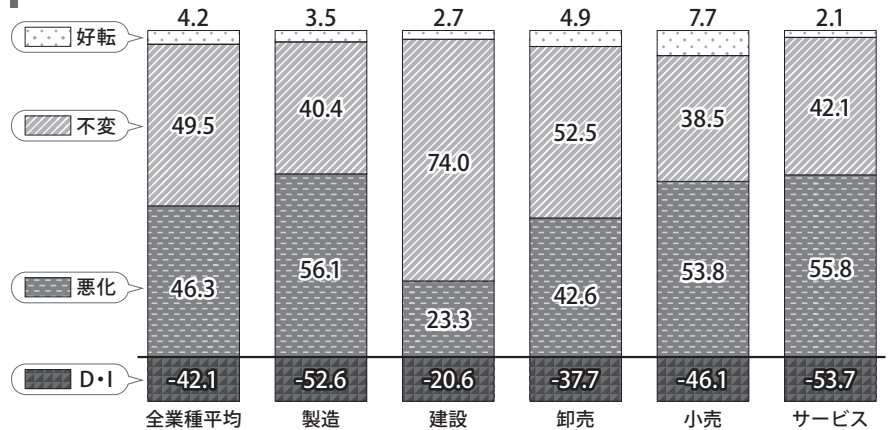
前年同期比 (2019年4~6月期の水準と比較した今期の資金繰り)

全業種平均でD・I値▲42.1[前回調査時(2020年1~3月期▲17.3)と24.8ポイントマイナス幅を拡大]

業種別D・I値

全業種	前回▲17.3→▲42.1
製造	前回▲20.0→▲52.6
建設	前回▲4.2→▲20.6
卸売	前回▲17.3→▲37.7
小売	前回▲23.9→▲46.1
サービス	前回▲21.0→▲53.7

今期の資金繰り(前年同期比)



2 来期の資金繰り

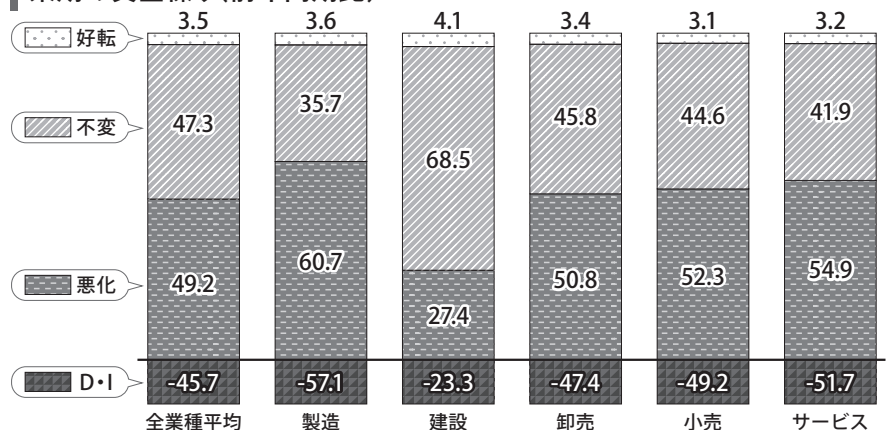
来期前年同期比

全業種平均でD・I値▲45.7[今期の資金繰り(前年同期比▲42.1)と3.6ポイントマイナス幅を拡大する見通し]

業種別D・I値

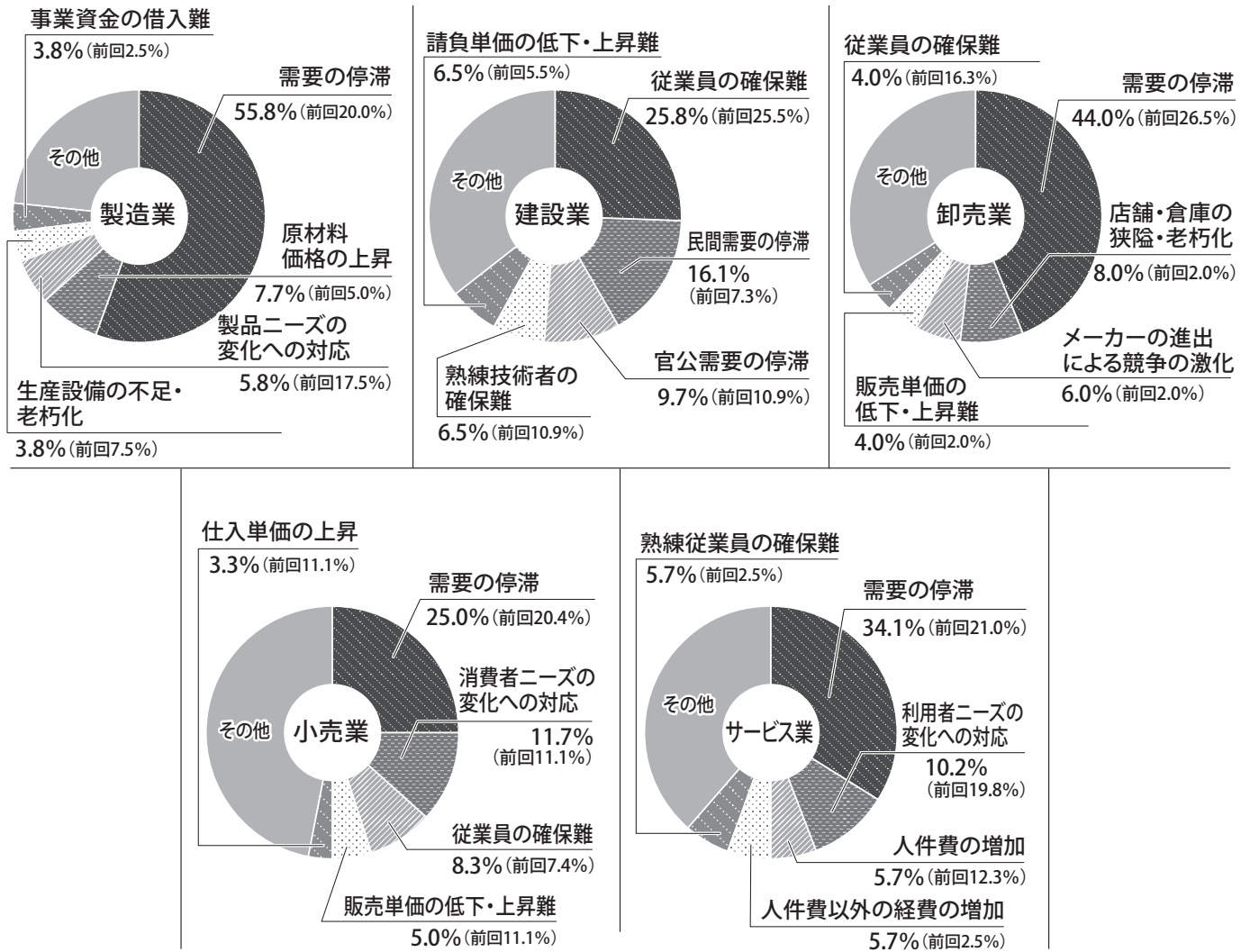
全業種	今回▲42.1→▲45.7
製造	今回▲52.6→▲57.1
建設	今回▲20.6→▲23.3
卸売	今回▲37.7→▲47.4
小売	今回▲46.1→▲49.2
サービス	今回▲53.7→▲51.7

来期の資金繰り(前年同期比)



5. 経営上の問題点

今期の経営上の問題点(上位に挙げられた項目)



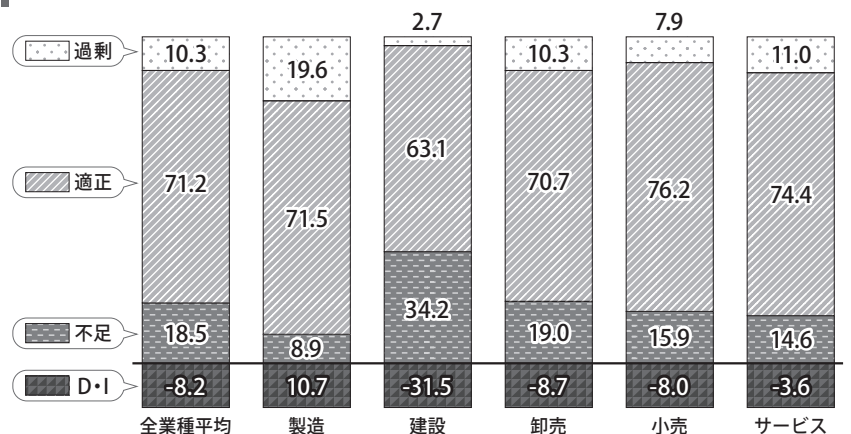
6. 従業員の動向

全業種平均でD・I値▲8.2〔前回調査時(2020年1~3月期▲21.3)〕と、人手不足感は和らぎつつあるが、依然、業界により差を生じている。

業種別D・I値

全業種	前回▲21.3→▲8.2	(適正71.2%)
製造	前回▲5.8→10.7	(適正71.5%)
建設	前回▲33.8→▲31.5	(適正63.1%)
卸売	前回▲25.0→▲8.7	(適正70.7%)
小売	前回▲19.4→▲8.0	(適正76.2%)
サービス	前回▲22.6→▲3.6	(適正74.4%)

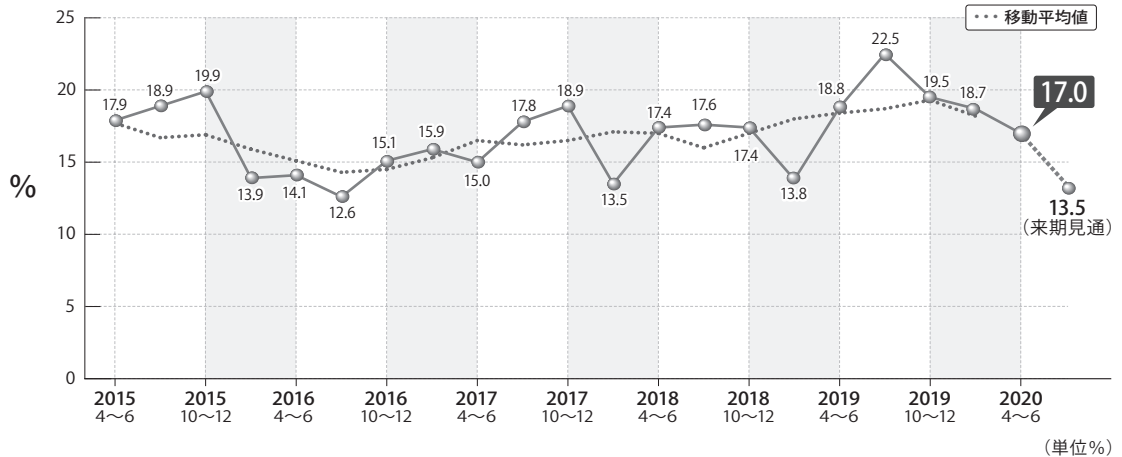
今期の従業員の動向



7. 新規設備投資

今期の新規設備投資

新規設備投資
実施の動向
(全業種平均%)



(単位%)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	全業種平均
実施した	25.0	23.6	10.0	16.9	9.6	17.0
土地	0.0	5.9	0.0	0.0	22.2	5.6
工場建物、建物、店舗	7.1	23.5	0.0	18.2	22.2	14.2
清算・販売・サービス設備、建設機械	28.6	0.0	0.0	9.1	0.0	7.5
車輛運搬具	28.6	29.4	50.0	27.3	33.3	33.7
倉庫・駐車場等の附帯施設	14.3	5.9	16.7	27.3	11.1	15.1
OA機器	35.7	47.1	33.3	27.3	33.3	35.3
厚生施設	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	3.5
その他	21.4	17.6	0.0	18.2	11.1	13.7
実施していない	75.0	76.4	90.0	83.1	90.4	83.0

新たに設備投資を実施した企業は平均で**17.0%** [前回調査時(2020年1~3月期18.7%)]

業種別では製造[前回16.3%→25.0%]、建設[前回26.5%→23.6%]、卸売[前回12.3%→10.0%]、小売[前回17.7%→16.9%]、サービス[前回20.7%→9.6%]と、建設業・卸売業・小売業・サービス業で実施した企業が減少した。

来期の新規設備投資

(単位%)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	全業種平均
実施する	16.4	14.7	9.8	16.1	10.5	13.5
土地	0.0	20.0	0.0	10.0	0.0	6.0
工場建物、建物、店舗	22.2	30.0	0.0	30.0	10.0	18.4
清算・販売・サービス設備、建設機械	33.3	20.0	0.0	20.0	40.0	22.7
車輛運搬具	22.2	40.0	33.3	40.0	40.0	35.1
倉庫・駐車場等の附帯施設	11.1	0.0	33.3	20.0	0.0	12.9
OA機器	33.3	40.0	33.3	30.0	20.0	31.3
厚生施設	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	50.0	20.0	30.0	20.0
実施しない	83.6	85.3	90.2	83.9	89.5	86.5

来期、新たに設備投資を予定している企業は全業種平均で**13.5%**となっており、今期17.0%と比べ設備投資を実施する企業がさらに減小する見通し。業種別では、製造[今期25.0%→16.4%]、建設[今期23.6%→14.7%]、卸売[今期10.0%→9.8%]、小売[今期16.9%→16.1%]、サービス[今期9.6%→10.5%]となっている。

Ⅱ. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点 2020年6月
(2) 調査対象期間 2020年4~6月期実績及び2020年7~9月期の見通し

2. 調査対象

(1) 中小企業景況調査

「製造業・建設業」については、資本金3億円以下、又は従業員300人以下の企業、「卸売業」については、資本金1億円以下、又は従業員100人以下の企業、「小売業」については、資本金5千万円以下、又は従業員50人以下の企業、「サービス業」については、資本金5千万円以下、又は従業員100人以下の企業を対象とした。

(2) 業界動向調査

道内各地商工会議所が地域の中小企業者との相談等により情報収集した特徴的事例。また各業界組合・企業に対し独自に聞き取り調査を実施し、生の声を収集した。

3. 調査地域及び調査方法

全道商工会議所地域の中小企業に対しアンケート調査を実施(中小企業景況調査)
全道商工会議所を通じて地域の業界・組合等へヒアリング調査を実施(業界動向調査)

4. 業種別・規模別回答状況(社数)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
小規模	41	57	41	58	72	269
中規模	16	16	21	7	27	87
合計	57	73	62	65	99	356
構成比(%)	16.0	20.5	17.4	18.3	27.8	100.0

業界動向調査

・業界動向ヒアリング先 製造業67社、建設業42社、卸売業44社、
小売業51社、サービス業94社、合計298社

D・Iとは…

本調査結果中の「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、各調査項目についての増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差引いた値(景気動向指数)を示す。

ホームページ：URL <https://www.hokkaido.cci.or.jp/keiki/>

